

# 鳥取市鹿野町におけるweb3を活用したまちづくり事業の提案

## Proposal of town development business utilizing web3 in Shikano Town, Tottori City

石塚里采<sup>†</sup> 北村太一<sup>†</sup> 前颯馬<sup>†</sup> 宮川裕之<sup>†</sup>  
Risa Ishizuka<sup>†</sup> Taichi Kitamura<sup>†</sup> Soma Mae<sup>†</sup> Hiroyuki Miyagawa<sup>†</sup>

<sup>†</sup> 青山学院大学 社会情報学部

<sup>†</sup> School of Social Informatics, Aoyama Gakuin University

### 要旨

過去3年間の研究により、鳥取市鹿野町のまちづくり事業を活性化させるためには、さまざまな人を巻き込み、鹿野町の住民が参加者ではなく企画側になる必要があることが分かった。本研究では、現在鹿野町を中心に活動を行っている「特定非営利活動法人鳥の劇場」に着目し、働く人々の想いを明らかにすることで、まちづくり事業にどのように貢献していくかについて新たな提案をすることにした。分析の結果、今の活動は継続し大切にしていきたいこと、また活動の幅を広げより多くの人々に訪れてもらいたいが、人手不足で今の活動が精一杯であることが明らかになった。この結果をもとに、近年注目されているweb3の概念の一つであるDAOを提案する。オンラインの環境さえ整っていればどこからでも参加できるため、活動の幅を広げるためのネットワークを形成できるだけでなく、遠隔地からオンラインを通じた人材を確保することができると考えた。

## 1. はじめに

### 1.1. 過去3年間の研究概要

2019年度から3年間を通して宮川研究室では鳥取市鹿野町において研究<sup>[1]</sup>を行った。2019年度の研究では、研究フィールドとしての鹿野町の魅力を示すために、鹿野町が抱える地域特有の問題を明らかにすることを目的とし、地域が抱える共通の想いをまちづくり事業関係者から抽出した。研究の結果、「いまの暮らしを守りつつ鹿野町に興味関心がある関係人口を増加させたい」という地域が抱える共通の想いが抽出された。2020年度にはこれらの研究を踏まえ、まちづくり事業関係者とのヒアリングを進め、現在まちづくり事業は高齢者など一部の人が中心に進められていること、さらには人手不足であることが起因し地域住民の協力が不可欠であることが明らかとなった。2021年度はまちづくり事業に関与していない地域住民からヒアリングを行い、想いの抽出をした。その結果、地域住民もまちづくり事業に携わっている人が限定的であると実感していること、鹿野町に対して何かをしたいという思いを持ちながらも、何をしたらいいのかが分からないというジレンマを抱えている現状が明らかとなり、さまざまな人を巻き込むためには鹿野町の住民が企画側になるイベントを遂行すること、またそのための外部への情報発信をしていくことが有効であると提案された。

### 1.2. 本年度の研究

過去3年間の研究を踏まえ、地域住民が企画側になるということに着目し、鹿野町の地域活性化のために現在活動を行っている団体に研究フィールドを置き、団体のさらなる地域への貢献を目指す。鹿野町を拠点に活動を行っている「特定非営利活動法人鳥の劇場」を研究フィールドとし、そこで働く人々の想いを明らかにすることで、鳥の劇場がまちづくり事業にどのように貢献していくかについて新たな提案をした。

## 2. 鳥の劇場で働く人々についての調査

### 2.1. 調査の目的

これまでの研究により、鹿野町が地域活性化を進めるにあたって抱えているまちづくり事業の関係者や地域住民の想い、地域特有の課題点が明らかになった。鹿野町のまちづくり事業は高齢者など一部の

人が中心に進められており、情報に関する知識が少ない人が多いことから、外部への情報発信がうまくできていない現状がある。そのため、地域住民はまちづくりに参加したいと思いつつも、具体的に何をすればいいのかわからないなどといったジレンマを抱えている。今後もまちづくりを進めていくには、鹿野町の地域住民が参加側ではなく企画側になりイベントを発信していくことが有効である。本研究では研究フィールドである鳥の劇場が企画側となり地域活性化により貢献できるあり方を提案するため、鳥の劇場で働く人々の活動や鹿野町への想いを明らかにすることを目的とした。

## 2.2. 調査概要

鳥の劇場で働く人々の活動への想いを明らかにするために、実際に鳥の劇場に訪問し、フィールドワークとオンラインでの会議を行った。鳥の劇場で働いている10名に半構造化インタビュー（ヒアリング）調査およびソフトシステム方法論<sup>[2]</sup>によるリッチピクチャを用いた調査を実施した。半構造化インタビュー調査によってヒアリング対象者の意見や本人が気づいていなかったこと、組織の葛藤や矛盾を明らかにした。また、依頼したリッチピクチャを鳥の劇場で働いている方々と確認しながらまとめ上げることで、鳥の劇場の目指す姿、想いを一つに統合した。

表1 調査概要

| 調査対象者        | 調査人数 | 調査方法                              | 調査内容  |
|--------------|------|-----------------------------------|---|
| 鳥の劇場<br>メンバー | 10人  | 半構造化インタビュー（ヒアリング）<br>（対面およびオンライン） | ①鳥の劇場が目指したいこと・成し遂げたいこと<br>②現時点で鳥の劇場にたりていないと感じるところ |
|              |      | ソフトシステム方法論（リッチピクチャ）<br>（対面）       | 「鳥の劇場の目指す姿を絵に表現してください」                            |

## 3. 調査の結果

半構造化インタビュー調査において、特に多かった回答を下表に示す（表2）。

表2 半構造化インタビュー調査結果の主だった回答

| 質問内容                   | 回答   | 回答者数 |
|------------------------|--|------|
| 鳥の劇場が目指したいこと・成し遂げたいこと  | 老若男女問わずいろんな人が訪れる場所にしたい                       | 4人   |
|                        | 多くの人に演劇を見に来てほしい                              | 10人  |
|                        | 鳥の劇場のように、地域活性化のために活動する団体を作るのが当たり前の中になってもらいたい | 3人   |
|                        | 活動の幅を広げていきたい、もっといろんなことがしたい                   | 8人   |
| 現時点で鳥の劇場に足りていないと感じるところ | 全般的に人手が足りていない、1人が複数のタスクをこなしている               | 10人  |
|                        | 県内外問わず認知されていない                               | 5人   |

また、依頼したリッチピクチャの例（図1.2）と、鳥の劇場の方々と確認をしながらまとめ上げた鳥の劇場が目指す姿を下図に提示する（図3）。

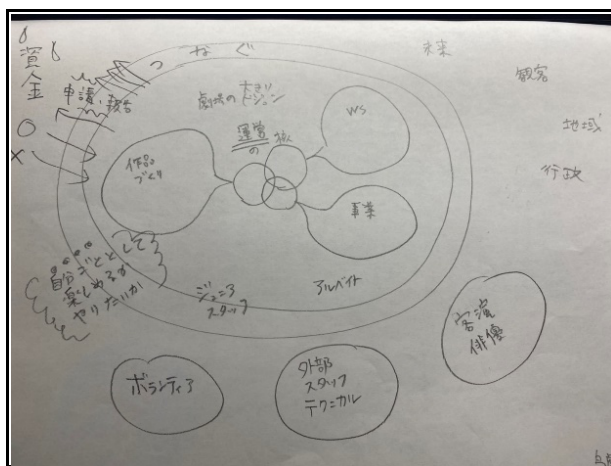


図1 依頼したリッチピクチャの例（その1）

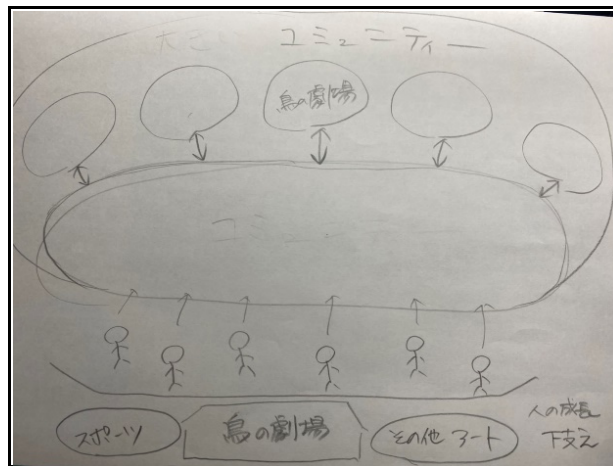


図2 依頼したリッチピクチャの例（その2）

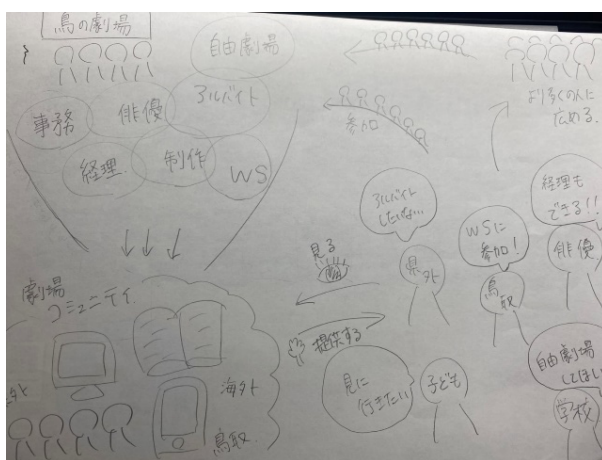


図3 まとめた理想の姿（リッチピクチャ）

調査の結果、インタビューを行った方のほとんどがより多くの人に訪れてもらいたい、活動の幅を広げていきたいと回答した。依頼したリッチピクチャ、まとめ上げたリッチピクチャからは鳥の劇場と外部のコミュニティが繋がる姿を理想としていることが読み取れることから、鳥の劇場の現在の活動にとどまらず、外部と繋がることで活動の幅を広げていきたいという共通の想いが抽出された。一方、一般的に人手が足りていないといった回答から、活動の幅を広げていきたいという想いを持ちながらも、人手不足が深刻であるという現状も明らかになった。

#### 4. DAO の提案

調査の結果から、鳥の劇場の人手不足を解消するとともに、新たな活動を展開し運用できるような仕組みを導入する必要があると考えた。そこで、近年注目されている web3 の概念の一つである DAO (Decentralized Autonomous Organization) に着目した。DAO の主な特徴には、①参加者全員が平等な立場で参加できること、②透明性が高いこと、③誰でも参加できることがある。特に、「③誰でも参加できること」について、オンラインで参加できる環境さえ整っていればどこからでも参加できるというメリットがあるため、活動の幅を広げるためのネットワークを形成できるだけでなく、遠隔地からもオンラインを通じて人材を確保することができると考えた。また、鳥の劇場に対する DAO の提案ではあるが、長期的に見た際に、DAO に参加する人が増えれば自ずと鹿野町に関わる機会を増やすことができ、最終的には鹿野町が目指す関係人口の創出につながると考えた。

なお、DAOの提案をするにあたっては、次のようなデータの流れ（図4）を想定した。

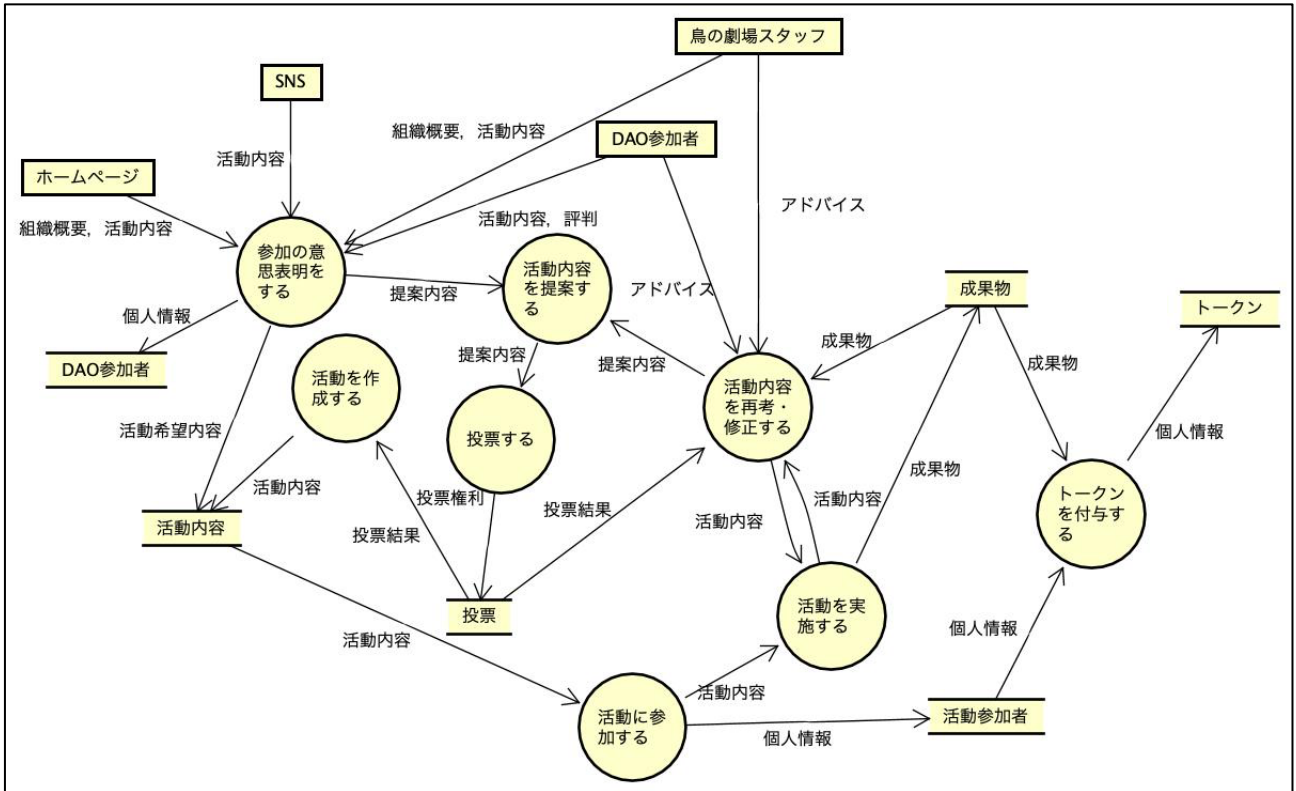


図4 鳥の劇場にDAOを導入した場合のDFD

## 5. まとめ

本研究では、鳥取市鹿野町を中心に活動を行っている鳥の劇場で働く人々から話を伺い、それぞれが抱える想いや組織の目指す姿を明らかにし、鳥の劇場が企画側となり、地域活性化により貢献できるあり方について検討した。その結果、活動の幅を広げていきたいという想いをもちながらも、現在人手不足が深刻な問題であることが明らかとなった。そのため活動の幅を広げつつ新たな人材を確保するには、オンライン上で誰もが参加することができ、県内外問わず鳥の劇場の活動に参加することができるweb3の概念の一つであるDAOの適用を提案した。

しかし、演劇という表現方法や感じ方が人によって異なることや、個人情報の管理などの問題から、現地に訪れずオンラインで活動を支援する方法がうまくいかないのではないかと懸念がある。多くの人材を確保し活動の幅を広げていくためには、オンラインでのやり取り、活動支援は必要不可欠である。そのため、鳥の劇場にDAOを利用することが果たして適切なのか、今後検証していく必要がある。

## 参考文献

- [1] 伊藤想, 五條万智, 宮川裕之, 鳥取市鹿野町における地域住民のまちづくり事業参画についての考察, 青山学院大学社会情報学部, 2021
- [2] 内山研一, 現場の学としてのアクションリサーチ-ソフトシステム方法論の日本的再構築-, 白桃書房, 2016.